

基本構想

- 1 目標年度
- 2 将来人口規模
- 3 まちづくりの理念と将来像
- 4 まちづくりの基本目標



1 目標年度

この基本構想の目標年度は、10年後の2025年度（平成37年度）とします。

2 将来人口規模

日本の人口は2008年の1億2,808万人をピークに減少に転じ、2048年には1億人を割り込む見通しとなっています。

しかし、自動車産業を中心とした製造業が盛んな西三河においては、人口構成が比較的若いこともあり、人口ピークがまだ先と推計されています。

このような状況の中、幸田町は、住み続けたいと思われるまちづくりを進めることにより、若い世代の流入を中心として人口が増加すると考えます。

2025年度（平成37年度）目標

42,000人

将来目標

50,000人

3 まちづくりの理念と将来像

心安まる、なだらかな山稜。その山々に守られるように広がる田園風景。
幸田町の風景を支えてくれる、この豊かな自然の保全や産業の発展は先人の知恵とたゆまぬ努力によるものです。
このまちが、これからもずっとあり続けるために基本理念を次のように定めます。



明治元年の22村が23の区（地域）になり現在の幸田町を支えています。それぞれの地域に応じた支え合いが地域の元気になり、まちの元気になっていきます。

年齢、性別を問わず、地域への想いを抱くみなさんと行政が共にそれぞれの役割を果たしながら、みんなで幸田町を育てていく。そんな思いを込め、幸田町がめざすべき将来像を次のように定めます。



4 まちづくりの基本目標

1 安全・安心

いのちと暮らしをまもるぞ

誰もがいつまでも安心して暮らせるまちづくりを進めるため、豊かな自然と住みよい環境のバランスをとりながら、今ある施設を有効活用し、快適な生活空間を創造します。また、自然災害による被害を最小限にとどめるため、広域的な連携を強化するとともに、住民との協働によりまちぐるみで連携し、みんなでのちと暮らしをまもります。

2 環境

自然豊かに美しく

豊かな自然環境はまちの魅力であるとともに、まちの財産でもあります。この環境を次代の子どもたちへ残すために、住民・事業所等と協力しながら、資源循環型社会の形成をめざすとともに、自然を保全・活用し、みんなで自然豊かに美しいまちをつくれます。

3 産業振興

幸田から全国へ 世界へ

農業・工業・商業といった産業の活性化は、まちそのものを活気づけるものであります。これまでに先人の努力により培われた地域産業を最大限活かすとともに、産業構造の変化へ柔軟に対応し、多種多様な産業育成を促進し、みんなで活力のある幸田を幅広く発信します。

4 健康・福祉

お年寄りまでみんなが元気

幸せで心豊かな生活を送るためには、まずは健康であることが大切です。そのために、すべての住民の生涯を通じた健康づくりを支援するとともに、まちぐるみでの子育て支援や、さまざまな人への福祉を充実させ、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが元気なまちをつくります。

5 教育・文化

きたえよう！こころとからだ

次代を担う子どもたちから高齢者まで、誰もが生涯を通じて健康で心豊かな生活をし、生きがいのある人生を送るため、学校教育の充実や、文化・スポーツに触れ合う機会をつくり、みんなでこころとからだをきたえます。

6 協働・参画

みんなのちからで続くまち

住民のみなさんと行政がお互いの役割分担を明確にし、多様な分野において協力しながら効率的な行政運営を行うとともに、近隣のまちとの連携を強化します。また、新市街地の形成による転入者や、外国人住民の方も含めたコミュニティの形成を図り、みんなで持続可能なまちをつくります。